

雪がた

—— 豊科病院だより ——



豊科病院広報誌

平成21年 2月 1日 発行

発行者 豊科病院広報文化委員会

〒399-8205

長野県安曇野市豊科5777-1

URL <http://shironishi.or.jp/>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。

したが、雪が30cmも積もる極寒の地でした。



私は約28年間、長野市の北の公的病院に勤めておりま

『追憶』

芳賀敬介医師着任の挨拶

その時、大切な出会いがありました。自治医大首席卒の池田宇一先生がその病院に来られ、腹工「コ」心工「胃」胃カメラとベットの基本的な手技ワレンソニックチューブによる内頸静脈から直接穿刺のVHとそけい部のカッタダウンによる長いソレノンチューブ

は、豊科病院は慢性的な人員不足や患者さんの高齢化など、様々な問題を抱えていると思うが、柔軟に対応して欲しい。」と、職員に訓示しました。



「新年式」 関総長訓示

1月5日に当院の新年式が開かれました。関健康理事長は、今年は五年なので、ゆつくり草を食みながら進みたいと思っていたが、国政が迷走し世界経済の不況が及ぶ中、組織の改革をしなければならぬ。本年は城西病院の精神科救急を基に、社会医療法人の申請を予定している。社会医療法人となり、公的病院と同じ立脚点に立つて、より充実した医療を提供していきたいと思う。」と、方針を述べ、また、当院に関して

による下大動脈までのIVHと、血管確保、また気管内挿管と人工呼吸器管理。)を約4年間教えて頂き、池田先生は現在信州大学循環器センター長と循環器科の教授に
あります。また中野市の厚生連北信総合病院の社浦康三先生のもとに弟子入りして、胃カメラ、大腸カメラ、気管支カメラ、十二指腸カメラによるERCP、内視鏡的逆行性
膵胆管造影)による膵と胆管の検査に車で1時間毎週毎週トレー
ニングに通い続けました。社浦先生は、北信総合病院の副院長となられ、その後高森町の厚生連下伊那
厚生病院の病院長にあられます。

その二人の先生との出会いは僕にとつて、とても大事な貴重な出会いでありました。二人の先生には今もとても感謝しております。

定年に近くなり、雪の少ない地へとやってきましたので、どうぞ宜しくお願いします。

※芳賀医師は、昨年10月1日より着任となりました。診療日は、本誌の外来担当医表を参照下さい。

『エコキャップ運動』にご協力を！

ペットボトルのキャップを集め、発展途上国の子どもたちにワクチンを贈ろうという、キャップフリーズのもと、
当院は、『エコキャップ運動』に参加しています。



キャップ集めの主旨と仕組み

当院は、ペットボトルのキャップを集め、ワクチンに替えて贈る運動』に取り組まれている、茅野市のボランティア『夢の会』さんに登録し、キャップを集める活動

『エコキャップ運動』を始めました。

当院が集めたキャップを、『ボランティア 夢の会』さんへ届け、『ボランティア 夢の会』さんは、リサイクル業者に売却し、その販売代金を、世界の発展途上国の子供にワクチンを贈る団体である世界の子供にワクチンを日本委員会』に、全額寄付する仕組みで

す。これまで、ただ捨てられていたペットボトルのキャップが換金され、そしてワクチンになるという、環境改善と再資源化に向けた、まさに『CO活動』なのです。

キャップの価格

キャップ1kg 約4百個)で10円分。すべて、ワクチンに換えられます。例えば、BCGのワクチンならば、約280個のキャップで、1人分の接種が可能です。

【どんなキャップを集めますか】

品質の安定化のため、清涼飲料水のキャップのみを対象とします。キャップについているシールや紙類は取り除く必要がなく、極端な汚れ以外は洗わなくて結構です。

私達日本人は物にあふれた環境の中で暮らしていますが、一方、世



界の発展途上国には、栄養失調や下痢、又は予防できる感染症で命を落としたり、後遺症に苦しんだりしている子どもたちがたくさんいます。日本では簡単に手に入るワクチンですが、それが無いために命を落とす子どもたちは、1日に約4千人にも達しているそうです。国境を越え、その子どもたちを救うためにワクチンを贈ることが出来れば、それは未来への素晴らしい贈り物になるのではないのでしょうか。

この運動の主旨にご理解をいただき、一人でも多くの皆様の協力をお願いいたします。

避難訓練 ～『煙災』に注意～



右の写真をご覧ください。平成20年11月28日に院内で行われた秋の防火防災避難訓練の様子です。当日は模擬の煙を焚き、このように煙に巻かれた状況下で訓練を行いました。模擬の煙ですから、無論人体に吸い込んででも無害なため、当日は、通常の訓練と同じよう

に、入院患者さん、職員も、難なく避難することが出来ました。しかし、実際の煙ならどうなるのでしょうか。

火災の煙の特徴は、一酸化炭素を多く含んでいます。一酸化炭素は、少し吸い込んだだけでも人はめまいを感じますが、わずかに三呼吸程度で、一酸化炭素中毒になり意識不明に陥ることもあり、大変危険なものです。更に、その中毒状況を自覚することが難しく、危険を察知出来ずに死に至る場合が多いと言われています。

一酸化炭素は、床から10cm位までの高さや、床と壁の角の部分などは比較的薄いと云われ、煙の中を逃げる際は、なるべく姿勢を低くすることや、濡れたタオルやハンカチ等で口を覆って避難する

ことも効果的です。

当院のようなコンクリートで出来たビルが、実際に火災になった場合、各病室と各階がコンクリートで仕切られ、更に防火扉も使用されるため、炎は比較的燃え広がらないと言われています。それに比べて煙は、ビル特有の煙突状になつた階段やエレベーターを中心に、一気に広がります。実際、今回の模擬の煙も、知らぬ間に階を越えて、院内の隅々まで広がりました。

このように、ビル火災においては、最も人の命を奪うものが「煙」であり、「火災」よりも「煙災」を強く意識する必要があります。今後の訓練は、迅速に避難するだけでなく、煙をより意識しながら訓練に臨むようにしたいものです。



うわさの『饅頭』販売

平成20年12月12日に当院1階ホールにて、饅頭が販売されました。饅頭を販売されているのは、地域活動支援センター 安曇野市ひめくぶしの家さん。平成20年10月より、毎月1回、院内にて販売されています。同所は、茶話会やハイキング、皮細工に陶芸など、色々な活動をされており、饅頭の製造



と販売も、その活動の一つです。饅頭は通常地域のイベントなどが催された際に販売されていますが、施設と医療の連携をコンセプトに、当院で定期的な販売が始まりました。

その販売状況ですが、10月の初回販売は30個を3分で完売。11月の2回目の販売では50個を7分で完売。そして、今回12月は70個を販売されました。

1個100円の饅頭の中身は、こしあん。ほごよい甘さで、完売時間の示す通り、外来患者さんにも職員にも好評です。

地元紙面にも紹介された、この噂の「饅頭」を、今後も院内にて販売していただく予定です。皆さん、一度お買い求めになつてみてはいかがでしょうか？

饅頭についてのお問い合わせ先
地域活動支援センター

安曇野市ひめじの家の家

住所 安曇野市豊科4-1-49
電話 0263-72-8553

外来 医師担当表

平成21年 2月現在

曜日	月	火	水	木	金	土
精神科	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	にしぎと よしあき 西里 吉昭 医師	ごみぶち みつなり 五味洸 満徳 医師	ごみぶち みつなり 五味洸 満徳 医師 OR なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	ごみぶち みつなり 五味洸 満徳 医師
内科	信州大学 第一内科 医師	はが けいすけ 芳賀 敬介 医師	休 診	はが けいすけ 芳賀 敬介 医師	はが けいすけ 芳賀 敬介 医師	はが けいすけ 芳賀 敬介 医師

◎ 受付時間 午前 8:00～午前 12:00

◎ 診療時間 午前 9:00～終了まで

※ 午後は全科**休診**となります。

※ 日曜・祝日は全科**休診**となります。

※ 精神科木曜日の担当医は、週ごとに変更となります。

※ご不明な点等は、受付へご確認下さい。
問い合わせ先 電話 0263-72-8400



～・編集後記・～

豊科病院広報誌「雪がた」第12号をお届けしました。

大寒を迎え、寒さ厳しき折、いかがお過ごしでしょうか？緯度のわりに冬の寒さが厳しい長野県ですが、意外と関西の方には人気があるようです。私の関西方面の友人も長野県のことを「信州」と親しみを込めて呼んでくれていて、季節も冬が一番人気です。少し離れて故郷を見つめると違った魅力が見つかるのかもしれませんが、

地元ではあまり人気のない(?)冬ですが、今年は「冬の魅力」を探してみませんか？

※表題「雪がた」について 春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。

また、表題の写真は当院屋上から撮影しました。